

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

エペソ人への手紙一章二三節

2016(28)年 週 報

9月11日

第二聖日

第 3472 号

あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

ピリピ1:6

聖
言

「恵みから栄光へ」

主の弟子となる¹⁹
第三課 基本原則

弟子とせよというイエスの命令の最後には、「彼らを教えなさい」とあります。イエスの弟子になることは、イエスの教えに従う者となるということです。初代教会はイエスの教えを要約したものを、「デイダケ」あるいは「教え」と呼びました。教会は、イエス・キリストの教えには核となる部分があり、それを使徒たちによってもたらされ、すべての人が学ぶ必要があると信じていました。この教えの核となる基本原則を、新約聖書は「キリストについての初歩の教え」と呼んでいます。このシリーズ全一三冊は、「初歩の教え―基本原則」という概念に基づいてまとめられています。この課では、この概念の基礎となるコロサイ二章六〜八節のみことばを学びます。キリストの原則は、この世の原則と相対立するものとして提示されています。全一三冊の書かれているこの原則をこれから学んでいく上で、原則はあるという確信が増し加えられていくことがきわめて重要になります。ここで九〜一〇頁の基本原則シリーズの概要をもう一度読み直してみることをお勧めします。

(CIBTE主の弟子より)

祈りのお願い

教会の後継者が与えられるように
神学生があたえられるように
各集会毎にお祈りください。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

「夫たちへの勧め②」

「キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いを
持つて、教会をきよめて聖なるものとするためであり、
(エペソ五ノ二六)

あなたはだれといるときが一番幸せですか。恋人、ペット、酒、
ギャンブル、仕事、ブランド、愛の対象とは、自分を裏切らな
いで、いつでも信頼できるものです。そういうものは世にあり
ません。この人であると思っている人も一夜にして死んでしま
います。

神様はご自分のかたちのごとくにアダムをお造りになられ、土
で造られた、あらゆる獣、空の鳥を彼のもとに連れてきた。ア
ダムはそれらに名をつけたが、かれにふさわしい助けがいなか
った。秋になると寂しくなる。こんなことではいけない。もつ
と不幸な人がいくらでもいる。私などは幸福である。寂しいと
いうのは贅沢であるといっても、寂しい。ため息ばかりをつい
ている。それで神様はアダムを深い眠りにねむらせて、あばら
骨を取り、そのところの肉をふさがれた。こうしてその骨をひ
とりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて行かれた。
すると人は言った。「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の
肉からの肉。これを女となづけよう。これは男から取られたの
だから。」それゆえ、男は父母を離れ、妻と結び合い、ふたり
は一体となるのである。そのとき、人とその妻は、ふたりとも
裸であったが、互いにはずかしいと思わなかった。」
これは男に女を助け手として与えられた物語です。そのように、
キリストに教会をあたえられたのです。その目的は、男と女が
愛しあうとともに、みことばをもってなされる水のあらいによ
って、すなわちバプテスマによって、教会をきよめ、これを聖
なるものとすることです。

第二はしみやしわのないようにする。しみやしわは老化現象の
あらわれ。必ずできる。それをなくするのは、死んでよみがえ
らた復活の主を迎え入れる。

第三は聖く傷のないものとなった栄光の教会にする。しみやし
わより醜いのは、嫉妬、陰口、貪欲、むさぼり、好色、ガラテ
ヤ5の肉の思いが教会を汚し、傷物にします。それを聖くする
のはイエス・キリストの十字架の贖いです。

初めにアダムの前につれて来られたエバも見た時、裸であった
が恥ずかしくなかった。そのように栄光に輝く教会を御自身の
前にたたせて、傲慢ができる教会。人の前にたたせて、恥かし
い、罪を犯したとき裸で恥かしい。そうでなく、イエス様の十
字架により罪を赦され、裸即ち、心の中を見られても、聖と愛
に満たされているという、栄光の教会を造ることを願っておら
れるのです。

二〇一六年九月七日午後六時半 祈祷会 山本稔牧師

「ホセアの家庭生活②」ホセア二章

「それゆえ、見よ、わたしは彼女をくどいて荒野に連れて行き、
優しく彼女と語らう。」(ホセア二章十四節)

ホセアトゴメルの家庭生活を通して、イスラエルがいかに、
靈的姦淫に陥っているかを知る。末期的な中において、神様は
「くどく」という言葉を使って、イスラエルを偶像から立ち返
らせて、真の夫なる神様の聖と愛なることを洗わず。

「中国の賛美」

インマネリー インマネリー シェーンワメンドダー

シェーンニンノンダー シェーンワノンダー

シェンノンダー シェンノンダー インマネリー インマネリー

アーメン

ワー要山(ヨージヤ) シャンシュンモー ワデイ パークソンハイライ

ワデイ パーゴ シトイエ ヤファア

カーヨン ダルヨゴシンジヨ アーメン